

「台湾と北九州市の  
スタートアップ・エコシステムの交流可能性」  
に関する調査研究

2022 年度分「スタートアップ推進に関する受託調査」  
調査研究報告書

令和 5 (2023) 年 3 月

公益財団法人 アジア成長研究所

## まえがき

本報告書は、公益財団法人アジア成長研究所（AGI）の受託調査研究プロジェクト「台湾と北九州市のスタートアップ・エコシステムの交流可能性」に関する成果報告書（2022年度実施分）である。近年、国内外で起業奨励とスタートアップ育成の土台として「スタートアップ・エコシステム」の構築が重視されている。エコシステムの構成要素には、起業家・スタートアップおよびそれを取り巻く起業カルチャーやコミュニティに加え、これを育成・支援する各種アクターが含まれる。政府機関、大学・研究機関、既存企業（特に大企業）、ベンチャーキャピタル（VC）のような投資家・資金提供者、そしてインキュベーターやアクセラレータのような育成機関である。

本調査研究では台湾に焦点を当てる。台湾は、近年、半導体・電子産業およびデジタル産業分野でも成長著しく、一層の発展と産業の新展開を目指して、スタートアップ創業、大企業とスタートアップとの協力促進、アクセラレータのような支援機関による活動も非常に盛んである。本研究の特徴は、台湾と北九州市との交流可能性を検討するにあたって、台湾の中でも相対的に後発である南部地域に関心を持つことである。とりわけ、南部地域の中心地の1つである高雄市にフォーカスする。同市は、重化学工業等の従来型産業を主体に発展してきた歴史があり、北九州市とも共通点が多い。また、近年、ソフトウェア、デジタル技術、5G、AI、IoTのビジネスを奨励し、その担い手である北部のハイテク大企業、国際的大手企業に加えスタートアップを誘致・育成しようと努めている。これと地元の従来型企業を連結し、DX推進を図ると同時に、スタートアップに対しても成長のチャンスを与えることを狙っている。本報告書は、次の2つの章から成る。

### 第1章 高雄市におけるスタートアップ推進とその背景

本章は、高雄市におけるスタートアップ推進の取り組みとその背景について解説する。まず、近年の高雄市の産業発展の背景となっている政策および産業の集積について概観する。次に、高雄市においてデジタル・スマート技術の発展と応用・普及を担う「亜湾5G AIoT 創新園區（Asia New Bay Area-5G AIoT）」について詳述し、最後に、高雄市のスタートアップ基地の活動について紹介する。

### 第2章 亜湾新創園（Startup Terrace Kaohsiung）

本章では、2021年12月に「亜湾5G AIoT 創新園區」内に開設されたスタートアップ基地「亜湾新創園（Startup Terrace Kaohsiung）」について詳説する。「亜湾新創園」には、複数のアクセラレータが入居し、スタートアップの育成を行う。加えて、単一の相談窓口を設置し各種サービスを提供する。近隣施設との連携による実証実験の実施、スタートアップと地元企業との連携促進、国際連携支援（海外スタートアップのソフトランディングと国内スタートアップの国際展開）を行っている。

令和5（2023）年3月

プロジェクト責任者 岸本 千佳司

# 目次

## 第1章 高雄市におけるスタートアップ推進とその背景

1. はじめに：高雄市の産業発展の背景	1-1
2. 亜湾 5G AIoT 創新園区 (Asia New Bay Area-5G AIoT)	1-3
2.1 亜湾 5G AIoT 創新園区の概説	1-3
2.2 亜湾 5G AIoT 創新園区の推進方策	1-4
2.3 これまでの成果	1-6
3. 高雄市のスタートアップ基地	1-7
3.1 KO-IN 智高點 (高雄智慧科技創新園區)	1-7
3.2 DAKUO (高雄市數位内容創意中心)	1-9
3.3 駁二共創基地 (PIER-2 BASE)	1-9
3.4 南部物聯網智造基地 (IoT Service Hub)	1-10
3.5 亜湾新創園 (Startup Terrace Kaohsiung)	1-11
3.6 活動成果	1-11
参考文献	1-12

## 第2章 亜湾新創園 (Startup Terrace Kaohsiung)

1. はじめに	2-1
2. 開設の経緯と目的	2-1
3. スタートアップ推進戦略	2-2
3.1 基本戦略	2-2
3.2 近隣施設との連携	2-3
3.3 地元産業との連携	2-3
3.4 国際連携	2-4
4. スタートアップ支援サービス	2-6
4.1 活動スペース提供	2-6
4.2 コンサルテーション	2-7
4.3 クラウド・プラットフォーム	2-7
5. 入居企業と戦略的パートナー	2-8
5.1 入居企業の概要	2-9
5.2 アクセラレータ	2-10
5.3 戦略的パートナー	2-11
6. まとめ	2-13
参考文献	2-14

## 執筆者紹介

岸本 千佳司 (KISHIMOTO Chikashi)  
公益財団法人アジア成長研究所 (AGI) 准教授  
E-mail : kishimoto@agi.or.jp

# 第1章 高雄市におけるスタートアップ推進とその背景

## 1. はじめに：高雄市の産業発展の背景

本章は、高雄市におけるスタートアップ推進の取り組みとその背景について解説することを課題としている。第1節では、近年の高雄市の産業発展の背景となっている政策および産業の集積について概観する。

図1 高雄ハイテク S 字回廊



(出所) 羅之盈 (2021)、Gwen (2022) を参考に作成。

2019年、蔡英文政権は、従来、北部地域に偏りがちであった台湾の国土開発を是正し、南北の均衡発展と地域格差解消を進めるため台湾南部地域（台南市、高雄市、屏東県）の発展計画（「大南方、大発展—南台湾發展計畫：略称 大南方計畫」）を打ち出した。同計画は、4つの重要政策を含んでいる。すなわち、「クラスターによる発展推進（用聚落帶動發展）」「交通により世界と連結（用交通連結世界）」「マーケティングで支える新農業（用行銷撐新農業）」「観光で繁栄を創造（用觀光創造繁榮）」である（葛祐豪，2019）。

これを背景に、「高雄ハイテク S 字回廊」が形成されつつある（羅之盈，2021）。これは、図 1 のように、高雄市の主要な科学園区、工業区等を線で繋げると S 字に見えることから来ている。表 1 は、S 字回廊上に位置する各地区の主要な園区・工業区の簡単な紹介である。とりわけ、路竹区の南部科学園区（南科）・高雄園区から、橋頭区の南科・橋頭園区、楠梓区の南科・楠梓園区（楠梓産業園区）と楠梓科技産業園区、そして仁武区の仁武産業園区にかけては半導体関連産業の集積地となることが予期されている（林耀文，2022a）。これにソフトウェアやデジタル技術にフォーカスした亜湾 5G AIoT 創新園区が加わることで、5G AIoT と半導体が高雄の未来の産業発展の 2 本柱となると期待される。

表 1 高雄ハイテク S 字回廊の園区・工業区

地区	園区・工業区の主要産業
路竹区	* 南部科学園区（南科）・高雄園区：光電子，バイオ医療器材，航空が主要産業
橋頭区	* 南科・橋頭園区：2021年企業の入居受け入れ開始。半導体，航空，スマート機械，ヘルスケア，産業創新が重点分野
楠梓区	* 南科・楠梓園区：元は，楠梓産業園区（高雄石油精製工場跡地）。TSMCの工場建設が発表され，南科に編入されることに決定 * 楠梓科技産業園区（元，楠梓加工出口区）：半導体後工程（パッケージング，テスト）産業。日月光半導体（ASE）の本社がある
大社区	* 大社工業区：石油化学
仁武区	* 仁武産業園区：楠梓産業園区に隣接し，航空，半導体関連企業が続々進出 * 仁武工業区：プラスチック製品，金属製品，化学材料，その他
大寮区	* 大發工業区：金属製品，基本金属
林園区	* 林園工業区：石油化学
小港区	* 高雄臨海工業区：産業分野は多種多様（基本金属，金属製品，機械設備，非金属鉱物製品，運輸工具，化学製品，食品・飲料，電力設備等）
亜洲新湾区	* 亜湾5G AIoT創新園区：ソフトウェア，デジタル技術，AIoT

（出所）南部科学園区ウェブサイト（<https://www.stsp.gov.tw/>）、經濟部工業局ウェブサイト（<https://www.moeaidb.gov.tw/iphw/>）、亜湾 5G AIoT 創新園区ウェブサイト（<https://asiabay.org.tw/>）、ASE ウェブ（<https://ase.aseglobal.com/>）、林耀文（2022b）、葛祐豪（2023b）に基づき作成。

以上の背景説明を踏まえ、第2節では亜湾 5G AIoT 創新園區について詳述し、第3節は高雄市のスタートアップ基地について紹介する。

## 2. 亜湾 5G AIoT 創新園區 (Asia New Bay Area-5G AIoT)

本節は、高雄市の産業アップグレードとスタートアップ推進をリードする「亜湾 5G AIoT 創新園區 (Asia New Bay Area-5G AIoT)」について、その概観と推進方策、およびこれまでの成果について解説する。

### 2.1 亜湾 5G AIoT 創新園區の概観

亜湾 5G AIoT 創新園區は、次の5つの産業・文化施設を活用した台湾最大規模の 5G AIoT の実証実験フィールドである (図2)。

- 「高雄ソフトウェアパーク (高雄軟體園區)」: 5G インタラクティブエンターテインメントエリア
- 「高雄埠頭クルーズターミナル (高雄港埠旅運中心)」: 5G ナショナルゲート・モデルエリア
- 「高雄エキシビジョンセンター (高雄展覽館)」: 5G 展示会モデルエリア
- 「高雄 e スポーツアリーナ (高雄電競館)」: 5G 無人機実験エリア
- 「高雄ミュージックセンター (高雄流行音樂中心)」: 5G 映像音声ストリーミング実験エリア

図2 亜湾 5G AIoT 創新園區の眺望



(出所) 高雄市 (2023) より引用 (高雄市政府經濟發展局提供)。

高雄ソフトウェアパークや亜洲新創園（Startup Terrace Kaohsiung）の入居企業に加え、隣接地区（中華電信成功ビル、85ビル、台壽BOTビルなど）に進出したハイテク大企業、およびDXを目指す従来型産業の大企業などとも連携し、5G AIoT技術の応用・実証実験が進められている（古田，2022；<https://asiabay.org.tw/> 2023年3月25日閲覧）。

亜灣5G AIoT 創新園區の舞台である亜洲新灣（亜灣）区は、高雄港北部（前鎮区を中心に一部苓雅区・鹽埕区を含む）の総合再開発地区である。2011年に陳菊・高雄市長（当時）により再開発計画が立案され、上述の施設の建設も進められた（古田，2022）。亜灣5G AIoT 創新園區の建設は、2021年5月に中央政府の行政院（内閣に相当）を通過した法案（「亜灣5G AIoT 創新園區推動方案」）に基づき、中央政府と高雄市政府の共同で実施されている。その目的は、5GとAIoT応用サービスを発展の主軸にし、亜灣地区の高付加価値化と産業変革を促進するものである。同時に、創業エコシステム構築、ハイテク企業と人材の誘致により、亜灣地区を新世代技術の応用の先駆者となし、南台湾の産業5G DXを推進する。合わせて台湾の北部と南部の均衡発展を図る（金属工業研究發展中心，2022；[https://asiabay.org.tw/about\\_us](https://asiabay.org.tw/about_us) 2023年3月25日閲覧）。2021～25年に総額110億台湾元の投資がなされる計画である（魏嘉宏，2022）。

## 2.2 亜灣5G AIoT 創新園區の推進方策

亜灣5G AIoT 創新園區の具体的な推進方策の主なものは、図3に記されている。中央政府の複数部局－經濟部の加工出口区（輸出加工区）管理處（加工處）/中小企業處（中企處）/技術處/工業局、國家通訊傳播（通信伝播）委員會（通傳會）、國家發展委員會（國發會）、交通部、文化部－と高雄市政府が各々リソースを持ち寄って共同で推進していることが分かる。以下では、6つの推進方策の各々について説明する。

図3 亜灣5G AIoT 創新園區の推進方策

<p><b>【園区開発】</b></p> <p>高雄市 ・006688方案etc.</p> <p>經濟部(加工處) ・高雄ソフトウェアパーク2期開発</p>	<p><b>【スマート施設建設】</b></p> <p>通傳會 ・5Gネットワーク建設補助</p> <p>國發會 ・5Gオープンネットワーク・システム統合と実証実験</p>	<p><b>【スタートアップとの連結】</b></p> <p>經濟部(中企處) ・亜灣新創園(Startup Terrace Kaohsiung)開設</p>	<p><b>【実地応用】</b></p> <p>國發會, 交通部 ・エリアのスマート化推進 ・5G創新応用の実地導入</p> <p>經濟部(技術處・工業局), 文化部 ・各種実地応用, 実証実験推進の計画</p>	<p><b>【人材育成】</b></p> <p>經濟部(工業局・技術處) ・次世代技術応用人材鍛錬計画etc.</p>	<p><b>【産業クラスター】</b></p> <p>經濟部(技術處・工業局) ・A+企業創新研發鍛錬計画 ・産業昇級創新プラットフォーム指導計画</p>
--	--	---	--	---	---

（出所）金属工業研究發展中心（2022）より引用し改変した。



## ① 園区開発

- 高雄市政府：「006688 方案」制定。園区内の特定ビルに入居する際のオフィス賃料を減免する制度で、1～2年目は全額免除、3～4年目は4割引、5～6年目は2割引である（2022年末まで）。この他、融資利息や家屋税、新たに雇用した従業員の給与などに対する各種補助金も導入し、入居企業の発展の足場固めをサポートしている（魏嘉宏，2022；葛祐豪，2022）。
- 經濟部（加工處）：「高雄ソフトウェアパーク（高雄軟體園區）」<sup>1</sup>の2期開発。現パーク敷地に隣接する約2.45haのエリアを開発する。第1棟のビルの建設は既に開始されており、2026年1月に完成予定、約1万坪のオフィススペースを提供できる。繁華街や生活機能の充実を企図している（經濟部技術處，2023；魏嘉宏，2022）。

## ② スマート施設建設

- 通傳會：5Gネットワーク建設補助。5G基地局の建設を補助し、亜灣5G AIoT 創新園区での5G人口カバー率を85%以上にする。特定エリア（例えば、高雄ミュージックセンター）での5G基地局を整備し、市民に5Gを応用した様々なサービスを体験させ。一層の普及とイノベーションの深化を促す（金属工業研究發展中心，2022）。
- 國發會：国際O-RAN（Open Radio Access Network）連盟認証のアジア初のOTIC（Open Testing and Integration Center）実験室の設立、および5Gオープンネットワーク・システム統合と実証実験の推進（魏嘉宏，2022）。

## ③ スタートアップとの連結

- 經濟部中企處：「亜灣新創園（Startup Terrace Kaohsiung）」を高雄ソフトウェアパークの鴻海ビル内（3・8階）に開設した（2021年12月）。スタートアップの入居賃借料の減免（初年は全額免除、2年目は半額免除）と入居するアクセラレータへの補助金もある（魏嘉宏，2022）。

## ④ 実地応用

- 國發會：AI識別技術と5Gオープンネットワークを結合し実証実験を行う。具体的には、高雄ソフトウェアパーク内でのライトレール衝突防止への応用、「駁二藝術特區」

---

<sup>1</sup> 高雄ソフトウェアパークは、經濟部加工出口區管理處の下、2000年開設した。7.9haの面積があり、南北2つのエリアに計8つのビルを有する。2023年3月2日時点で、ソフトウェア、デジタルコンテンツ、スマート技術応用、その他の分野の企業が342社入居し（スタートアップに限らない）、全体で投資額累計約209億台湾元、雇用創出効果7,911人、年売上額は142億台湾元以上に上る。入居企業へのサービスとして、単一窓口による対応、技術・人材・資金・ビジネスマッチング面での支援、園区内企業間の交流会開催等がある。園区内に、デジタル人材育成のための「DX共創基地（Digital Transformation Innovation Hub；數位轉型共創基地）」が設置されている（<https://www.ksp.org.tw/> 2023年3月24日閲覧）。

での体感 e スポーツである。

- 國發會：5G のスマートシティでの応用事例を提示し、5G の応用と普及を促進する。具体例は、退輔會榮民之家におけるスマートヘルス応用、高雄ソフトウェア園區・高雄駅におけるスマートエキジビション応用、高雄海洋科技産業創新專區におけるスマート教育応用である。
- 交通部：鉄道、海空港、公共運輸での 5G 環境整備と AIoT、ロボット、無人機、AR/VR 等の応用により、スマート交通技術とサービスのイノベーションを促進する。
- 經濟部工業局：スマートシティでの生活応用普及計画。業者および地方政府と協力し、各エリアでのスマートサービスの実験と拡散、そしてソリューションの輸出を促進する。具体的な応用例は、駁二大義ライトレール駅などでの衝突防止、高雄興港での無人機による物品配送、高雄市医療施設での AI 精密看護・診断設備である（以上、次の資料による。金属工業研究發展中心，2022）。

## ⑤ 人材育成

- 經濟部工業局・技術處：複数の人材育成計画（魏嘉宏，2022）。具体例は、亜灣デジタル人材育成基地「CG ARK 夢想方舟」<sup>2</sup> の開設である（2021 年 12 月）。

## ⑥ 産業クラスター

- 經濟部技術處・工業局：スマート医療、スマートインフラ、スマート製造、エキジビション等での 5G AIoT 応用の促進、高雄への企業の誘致、基幹事業者（中國鋼鐵、台湾中油、台湾電力、港務）スマート化へのスタートアップの協力などを通して、5G AIoT 産業クラスターを構築する（魏嘉宏，2022）。

## 2.3 これまでの成果

亜灣 5G AIoT 創新園區は、2022 年末までに、多数の国内外の企業を誘致し、約 154 億台湾元の投資、327 億台湾元超の生産額を記録した。その中には、Compal（仁寶）、Wistron（緯創）、AUO（友達）、ASUS Cloud（華碩雲端）などの 18 社の重要企業が含まれる。また、亜灣新創園（Startup Terrace Kaohsiung）には 3 社のアクセラレータと 90 社のスタートアップが入居している。この他、中國鋼鐵、台湾中油、台塑企業（Formosa Plastics）等の地元の主要企業 12 社で 5G AIoT 技術導入による DX 推進を支援した。加えて、高雄展覽館、高雄 e スポーツアリーナ、高雄ミュージックセンターなどの主要テーマ施設、高雄港や駁二藝術特

---

<sup>2</sup> 「CG ARK 夢想方舟」は、高雄ソフトウェアパーク内に、經濟部工業局と夢想動畫（MoonShine Animation）等の企業が協力し設立された。5G AIoT 産業のデジタルコンテンツ技術と応用の発展を目指す。XR バーチャルスタジオを有しバーチャルな背景の中で共同作業ができる（王雯玲，2021）。

区などの特別エリア、高雄榮民總醫院、高雄醫學大學、高雄長庚醫院などの医療施設を含む 36 ヲ所のエリアで実証実験を実施した（經濟部技術處，2023；Startup Terrace Kaohsiung, 2023）。

加えて、展示会開催実績としては次の様なものがある。①2016年に高雄市が呼びかけ 2 年ごとに世界各地の港湾都市を招待し討論する「スマート港湾グローバルフォーラム（智慧港湾全球論壇）」（2022年の実績：40名の専門家参加、7つの専門的座談会開催、20組の港湾科技展示）、②南台湾で最大級のスタートアップ展示会である「Meet Greater South X 5G AIoT Expo（亞灣創新 X 新創大南方展會）」（2022年の実績：のべ 1.4 万人超の来場者、スタートアップ 269 社の参加、68 件の談話会開催、117 人の投資機構の代表参加、マッチング 613 組）、③デジタル技術とアートの展示会「DiGiWave」と 2022 年に高雄で開催された「台灣設計展（Taiwan Design Expo）」中のメタバースをテーマとした特別展示「LOG ING—登入元宇宙」（2022年の実績：のべ 43 万人以上の来場者）、④台湾最大の文化クリエイティブ展示会の「台灣文博會（Creative Expo Taiwan）」は、2022 年は高雄で開催された（高雄市，2023；<https://creativexpo.tw/en/about/about> 2023 年 3 月 28 日閲覧）。

高雄市政府は 2022 年 11 月に「亞灣 2.0 計画」を発表した。さらに翌 2023 年 2 月に、亜灣 5G AIoT 創新園區隣接の国営事業用の土地 43.54 ha 分の使用計画を変更し、同園區の一層の拡充に供するようにした。金融・ICT の中大型企業の進出を誘引し、ならびに夜間・休日の観光リクリエーション向けのオープンなベイエリアとして開発される（葛祐豪，2023a）。

### 3. 高雄市のスタートアップ基地

高雄市には 5 つのスタートアップ基地（新創基地）が立地する。すなわち、KO-IN 智高點、DAKUO、駁二共創基地、南部物聯網智造基地、亜灣新創園である。前 3 者は高雄市政府の運営であり、後 2 者は各々中央政府の經濟部工業局および同中小企業處の管轄下にある。本節では各々についてその特徴と活動内容、そして活動成果の一端を紹介する。

#### 3.1 KO-IN 智高點（高雄智慧科技創新園區）

「KO-IN 智高點（高雄智慧科技創新園區）」は、2019 年に高雄市財稅行政ビル内（13・14 階）に開設されたスタートアップ支援施設である。その目的とビジョンは、「高雄スマートシティと関連スマート科技の発展をテーマに、スタートアップ事業の加速と既存産業（企業）のイノベーションの支援を通して、南台湾の産業構造を転換し、新たな成長エネルギーを注入し、ならびにスタートアップ産業のクラスター形成を促し、南部産業の勃興発展を推進する」というものである。（[https://koin.kcg.gov.tw/?page\\_id=4194](https://koin.kcg.gov.tw/?page_id=4194) 2023 年 3 月 26 日閲覧）。

KO-IN 智高點の有する施設は、ビルの 2 層にわたる約 900 坪の床面積で、15 部屋の 8～

14 坪の独立オフィスと 86 席分のコワーキングスペースである（王承綸，2019）。入居申請資格があるのは、「高雄の重点発展分野である AI、IoT、Blockchain、Fintech のスマート科技関連産業で、イノベーティブな経営構想を持つ会社、法人、非法人団体およびフリーランス、あるいは入居者に専門的サービスを提供する会社」である（[https://koin.kcg.gov.tw/?page\\_id=4194](https://koin.kcg.gov.tw/?page_id=4194) 2023 年 3 月 26 日閲覧）。

2023 年 2 月 9 日入手の資料（高雄市，2023）によると、その時点での入居者は 23 社のスタートアップと企業研究開発センターで、それまでの累計で 67 社が入居している。また累計で、309 人分の就業機会を創造し、6.43 億台湾元の投資額があった。面談調査によれば、ここに入居しているのは、Big Data、AI、IoT 等の分野の企業であり、既に上場（上市櫃）している企業も含まれる。また、北部の既に相当発展している企業の南部研究開発拠点もあるのだという（kaohsiung-2023）。

入居者には、次の様な面での支援が提供される。

- 技術協力：技術アップグレード、産業トランスフォーメーション、政府計画への申請
- 創業指導：ビジネスモデル、資金調達計画、マーケティング販路
- 法律財務コンサルティング：法律、知財保護、株式所有構造の計画、企業価値評価、人材訓練
- その他：エリアの日常的運営、業者マッチング、PR 協力、政府資源へのリンク、交流活動

KO-IN 智高點は、協力パートナーとして、TRIPLE（Taiwan Rapid Innovation Prototyping League for Entrepreneurs；臺灣創新快製媒合中心）、DAKUO（Digital Art Kaohsiung United Office；高雄市數位內容創意中心）、TAcc+（Taiwan Accelerator Plus；臺灣最新型加速器）、AI Robotics Hub at Central Taiwan Science Park（中科智慧機器人自造基地加速器）、Mighty Net（邁特電子企業）、IAPS（Center of Industry Accelerator and Patent Strategy, National Yang Ming Chiao Tung University；交大產業加速器）といった他のスタートアップ支援関連の団体・企業と連携している（[https://koin.kcg.gov.tw/?page\\_id=4195](https://koin.kcg.gov.tw/?page_id=4195) 2023 年 3 月 26 日閲覧）。加えて、台湾南部地域（台南、高雄、屏東）の大学およびスタートアップ育成機関等が集い交流する場ともなっている（高培徳，2022）<sup>3</sup>。

---

<sup>3</sup> 高雄市には、14 の創新育成センター（インキュベーター）があり、次のように、その大半は大学付属である。①國立高雄科技大學創新育成中心、②高雄醫學大學產學營運處創新育成中心、③國立高雄大學產學育成中心、④國立中山大學創新育成中心（中山貨櫃創業基地）、⑤義守大學創新育成中心、⑥高苑科技大學創新育成中心、⑦東方設計大學創新育成暨研究發展中心、⑧國立高雄師範大學育成中心、⑨國立高雄餐旅大學餐旅創新育成中心、⑩正修科技大學育成中心、⑪創業台槓創新育成中心（弘帆創新有限公司）、⑫樹德科技大學創新育成中心、⑬經濟部中小企業處高雄軟體育成中心、⑭輔英科技大學創新育成中心（[https://sme.moeasmea.gov.tw/startup/modules/rmap/creative\\_space\\_list.php](https://sme.moeasmea.gov.tw/startup/modules/rmap/creative_space_list.php) 2023 年 2 月 26 日閲覧）。

### 3.2 DAKUO（高雄市數位内容創意中心）

「DAKUO（Digital Art Kaohsiung United Office；高雄市數位内容創意中心）」は、2011年設立で、高雄市鹽埕区の公有零售（小売）市場2・3階に位置し約880坪の床面積を有している。デジタルコンテンツおよび文化クリエイティブ産業にフォーカスし、スタートアップ育成および創作活動に従事する個人・団体の公演・研修・交流活動のための場となっている。そして、「中小型企业、個人創業者、都市フリーランスを繋げ創業の気風を巡らせることを希望する。かつスタートアップ・チームの分野を超えた協力、産学研との連結、および人材資源の合流を促進し、産業のクラスター形成とリンケージを成さしめ、DAKUOを大高雄地域におけるデジタルコンテンツ発展の前線基地とする」のだという（<https://dakuo.co/dakuo> 簡介/；<https://dakuo.co/support-faq/> 2023年3月27日閲覧）。

DAKUOでは、様々なイベント、研修、交流に使用できる展示スペースや会議室、PCルーム、放映室、研修室が貸し出されている（<https://dakuo.co/> 2023年3月27日閲覧）。加えて、独立オフィスとコワーキングスペースも用意されている。デジタルコンテンツ関連ビジネスのスタートアップは、10～90坪の異なるサイズの独立オフィス（長期入居用：3+1+1年）に入居し、加えて会議室、展覧エリア、ライブ配信スペース、シャワー等を利用できる。臨時もしくはチームの規模が小さい場合はコワーキングスペースに入居する。スタートアップへの支援は2つの方法でなされる。①地元産業・市場ニーズと連結し、適切な協力ビジネスモデルと政府リソースを提供する。②創業リソースや学界との繋がりをつくり、技術、人事、マーケティング、市場分析、海外市場マッチングといった支援をする（<https://dakuo.co/registration/長期進駐/>；<https://dakuo.co/dakuo> 簡介/ 2023年3月27日閲覧）。

2023年2月9日入手の資料によると（高雄市，2023）、その時点での入居しているスタートアップは12社で、それまでに累計65社が入居している。製品研究開発は668件超で、累計就業人口は1,095人である。面談調査によれば、DAKUOには、Toydea、J.O.E等の日本企業が入居した実績もある。また、高雄市には多数の大学があり、その中にはゲーム開発に関連する学系もある。そこから、関連人材あるいは創業者がDAKUOに入ってくることもあるという（kaohsiung-2023）。

スタートアップに提供される創業リソースには、中央政府および高雄市政府の様々な部局が用意した多数の補助・指導計画、コンテスト、創業投資・融資が含まれる（<https://dakuo.co/創業資源/> 2023年3月27日閲覧）。協力関係にある投資会社・団体として、エンジェル2社、VC7社、創業投資融資7社、合計16社が掲載されている（<https://dakuo.co/創投資源> 2023年3月27日閲覧）。

### 3.3 駁二共創基地（PIER-2 BASE）

「駁二共創基地（PIER-2 BASE）」は文化クリエイティブ産業分野にフォーカスしたスタ

ートアップおよび創業志望者向けの支援施設である。2層にわたり計 1,000 坪の床面積を持つ。会議室、講座用スペース、大小 70 室ほどの独立オフィス（長期入居用：1 年ごとの更新）、討論室、コワーキングスペース、厨房を備えている（<https://www.pier2base.tw/about/1> 2023 年 3 月 27 日閲覧）。

PIER-2 BASE に入居することのメリットとして、会社登記所在地に出来る、高雄市文化局の文化クリエイティブ関連部署が入居しており各種行政支援が受けやすい、マッチングおよび法律・財務会計・経営管理等のコンサルティングサービスがある、イベントおよび会議スペースの賃借料の優遇などがある。また、同基地は「駁二藝術特區 (The Pier-2 Art Center)」<sup>4</sup> に位置しており、市場動向を掌握し易い、独特の芸術的雰囲気により創造意欲を刺激される、毎年 100 回超の芸術文化イベントが開催される、交通の便が良い、といったメリットもある（<https://www.pier2base.tw/space3/1> 2023 年 3 月 27 日閲覧）。

### 3.4 南部物聯網智造基地 (IoT Service Hub)

「物聯網智造基地 (IoT Service Hub)」は、中央政府の經濟部工業局の支持のもと、ソフトとハードの技術統合、クラウドプラットフォーム接続、製品設計、市場配置、データ応用といったリソースを連結し、有望な IoT 製品を量産と市場販売にまで導く専門的サービスを提供する。台北、台中、高雄の各々に基地がある。高雄の基地は、高雄ソフトウェアパークの中に位置する（[https://www.ideas-hatch.com/iot\\_service\\_hub.jsp](https://www.ideas-hatch.com/iot_service_hub.jsp) 2023 年 3 月 28 日閲覧）。

IoT 製品の構想からプロトタイプ作成、試作・量産、販売に至るまでに IoT Service Hub が提供する支援は次の様なものである（[https://www.ideas-hatch.com/iot\\_service\\_hub.jsp](https://www.ideas-hatch.com/iot_service_hub.jsp) ; <https://www.ideas-hatch.com/have.jsp?lang=zh> どちらも 2023 年 3 月 28 日閲覧）。

- ① プロトタイプ開発支援：国産 IC を使用した IoT 製品開発用モジュールおよび IoT データ・プラットフォームを用意し、開発の技術的ハードルを下げ、量産までの過程を加速する。
- ② 各分野の専門家とのマッチング支援：製品開発計画の診断・評価、合計約 100 社のスマート製造関連の各種専門パートナー（製品設計、機構・外形設計、ソフトとハードのシステムインテグレーション、試作品・量産など）との精密なマッチングを行う。
- ③ 専属プロジェクト・マネジャーによる指導：IoT 製品化の各段階に合わせたコンサルテーション、セミナー提供、リソース紹介をする。例えば、製品開発段階なら、市場ポジショニング、需要予測、製品均質性の分析で支援する。より進んだ段階なら、プレマー

---

<sup>4</sup> 駁二藝術特區は、高雄港に近接する旧倉庫街をリノベーションしたアートスペースである。2001 年に芸術家たちが「駁二藝術發展協會」を立ち上げ、リノベーションが始まり、翌 2002 年にアートスペースとしてスタートした。2006 年以降は、高雄市文化局が運営主体となり、各種イベントが開催され、台湾南部のアートの発信地として発展している（<https://lifestylinglog.com/the-pier2-art-center/> 2023 年 3 月 27 日閲覧）。

ケット・パイロット調査や製品改良に関して、製品販売段階なら、販路のアレンジといった側面で支援する。

他方で、育成対象チームに支援を提供する各分野の専門業者を募集し、「スマート製造サービス団」に加入することを促している ([https://www.ideas-hatch.com/mem\\_partner.jsp](https://www.ideas-hatch.com/mem_partner.jsp) 2023年3月28日閲覧)。また、IoT導入による工場や店舗・オフィスのスマート化のニーズを掘り起こし、適当な製品を持つスタートアップとマッチングし、試験的導入、そして効果の実測データのフィードバックといった流れで、双方に利益になるようにしている ([https://www.ideas-hatch.com/enterprise\\_position\\_raise.jsp](https://www.ideas-hatch.com/enterprise_position_raise.jsp) 2023年3月28日閲覧)。ウェブサイトには、スマート化を希望する企業・施設等の実例が合計12件(医療・健康6件、製造業・伝統的産業2件、店・ショッピングフロア・都市2件、農漁養殖業1件、その他1件)掲載されている (<https://www.ideas-hatch.com/enterprise.jsp> 2023年3月28日閲覧)。

### 3.5 亜湾新創園 (Startup Terrace Kaohsiung)

「亜湾新創園 (Startup Terrace Kaohsiung)」は、經濟部中小企業處の主導により、高雄ソフトウェアパークの鴻海ビル内の2層を使い2021年12月に開設された。複数のアクセラレータが入居し、スタートアップの育成を行う。加えて、単一の相談窓口を設置し各種サービスを提供する。近隣施設との連携による実証実験の実施、スタートアップと地元産業・企業との連携促進、国際連携支援(海外スタートアップのソフトランディングと国内スタートアップの国際展開)を行う (<https://www.yawan-startup.tw/> 2023年3月15日閲覧)。同園區については、第2章で詳説する。

### 3.6 活動成果

以上で紹介した高雄市に立地する5つのスタートアップ基地全体の2022年の活動成果をここで紹介する(高雄市, 2023)。

- 従来型産業・国営事業とスタートアップの連携・協力：コンサルティング87件、交流会39回、訓練と資金調達のマッチング会75回、オーダー受注2.6億台湾元
- コンテスト(既存企業が直面する課題を「出題」し、スタートアップがそれにソリューションを提案する。それを企業側が複数の段階を設けて審査・選別するという形式)：企業出題17社・21件、スタートアップ提案101社・124案、第1段階審査通過45社・51案
- アクセラレータの誘致とスタートアップ育成：育成スタートアップ61社、園區でのイベント65回、ビジネス協力事例48件、投資額800万米ドル

高雄市には、十数校の大学（およびそれに準ずる高等教育機関）があるが<sup>5</sup>、面談調査によると、多くの高雄の学生は北部に行き、そこで創業する。ビジネスチャンスを作り、彼らを高雄に引き戻したいと願っているという。その1つの方策として、上述のコンテストのように、地元企業が出題しスタートアップがソリューションを提案するという方式で、スタートアップに高雄にはチャンスが多くあることを知らしめ、地元出身者に帰ってくるようにさせる。あるいは、大学在校生に、創新創業の能力があることを自覚させたいのだという（kaohsiung-2023）。

## 参考文献

### <日本語>

古田清史（2022）「高雄市におけるスタートアップ支援機関『亜湾新創園』の開設と5G・AIoT関連の新たな産業クラスター形成の取り組みについて」『交流』（2022.2）No. 971, pp. 15-19

### <中国語>

高培德（2022）「經發局邀南高屏 16 所大專院校創育機構 齊聚 KO-IN 智高點交流」『鮮週報』（2022.8.26）（<https://freshweekly.tw/?pn=vw&id=ufcs3k25ug12> 2023年3月26日閲覧）

葛祐豪（2019）「蔡英文發表『大南方，大發展』南台灣發展計畫」『自由時報』（2019.12.14）（<https://news.ltn.com.tw/news/politics/breakingnews/3009120> 2023年3月25日閲覧）

葛祐豪（2022）「強化亞灣5G AIoT生態系 高市府006688專案延長至年底」『自由財經』（2022.7.20）<https://ec.ltn.com.tw/article/breakingnews/3997843> 2023年3月25日閲覧

葛祐豪（2023）「高市府啟動亞灣2.0計畫43公頃國營土地都計變更」『自由財經』（2023.2.18）（<https://ec.ltn.com.tw/article/breakingnews/4214924> 2023年3月30日閲覧）

葛祐豪（2023）「開發費52億 楠梓產業園區納南科」『自由時報』（2023.3.7）（<https://news.ltn.com.tw/news/Kaohsiung/paper/1570736> 2023年3月30日閲覧）

Gwen（2022）「你的企業能跟上5G AIoT的火車頭嗎？」『南主角』（2022.1.22）（<https://master-south.tw/article/articledetail/1808> 2023年3月30日閲覧）

經濟部技術處（2023）「『亞灣5G AIoT創新園區』創造327億產值成果豐碩 跨部會攜手打造南

---

<sup>5</sup> 教育部の「2022年度 大專校院一覽表」では、次の18校が掲載されている。①國立中山大學、②國立高雄師範大學、③國立高雄大學、④國立高雄餐旅大學、⑤國立高雄科技大學、⑥高雄市中立空中大學、⑦義守大學、⑧高雄醫學大學、⑨樹德科技大學、⑩輔英科技大學、⑪正修學校財團法人正修科技大學、⑫高苑科技大學、⑬文藻學校財團法人文藻外語大學、⑭東方學校財團法人東方設計大學、⑮和春技術學院、⑯樹人醫護管理專科學校、⑰育英醫護管理專科學校、⑱財團法人一貫道天皇基金會一貫道天皇學院（<https://ulist.moe.gov.tw/Query/Area/S4#> 2023年2月26日閲覧）。



臺灣下世代科技應用之先驅」經濟部技術處ウェブサイト『最新消息』（2023.1.4）

([https://www.moea.gov.tw/MNS/doi/news/News.aspx?kind=1&menu\\_id=13419&news\\_id=104216](https://www.moea.gov.tw/MNS/doi/news/News.aspx?kind=1&menu_id=13419&news_id=104216))

2023年3月28日閲覧)

金属工業研究發展中心（2022）「亞灣相關落地計畫」2022年3月29日

(<https://www.mirdc.org.tw/download/member/亞灣相關落地計畫.pdf> 2023年3月15日閲覧)

高雄市（2023）「高雄新創環境」，高雄市におけるスタートアップ推進の紹介資料（2023年2月9日 高雄市政府經濟發展局訪問時に入手）

林耀文（2022）「推動南科高雄第三園區設置串連路科，橋科 北高雄房市將大發展」『自由時報』

(2022.8.15) (<https://estate.ltn.com.tw/article/14550> 2023年3月30日閲覧)

林耀文（2022）「仁武產業園區轉型 增人口紅利與就業」『自由時報』（2022.9.8）

(<https://estate.ltn.com.tw/article/14706> 2023年3月30日閲覧)

羅之盈（2021）「台積電證實設廠高雄！『南部半導體 S 廊帶』已現？」『遠見』（2021.11.10）

(<https://www.gvm.com.tw/article/84053> 2023年3月30日閲覧)

王承綸（2019）『『KO-IN 智高點』開幕營運 啟動高雄智慧科技新時代』『台灣好報』（2019.6.21）

(<https://tw.news.yahoo.com/ko-in-智高點-開幕營運-啟動高雄智慧科技新時代-093919750.html>)

2023年3月26日閲覧)

王雯玲（2021）「亞洲新灣區人才培育基地 CG ARK 夢想方舟開幕」『台灣好報』（2021.12.27）

(<https://www.newstaiwan.tw/newspage.php?nnid=322758> 2023年3月28日閲覧)

魏嘉宏（2022）「高雄『亞灣 5G AIoT 創新園區』簡介」亞洲新灣區 5G AIoT 創新園區專案辦公室

2022年1月24日 ([https://asiabay.org.tw/open\\_data](https://asiabay.org.tw/open_data) 2023年3月15日閲覧)

## <英語>

Startup Terrace Kaohsiung (2023) “Startup Terrace Kaohsiung”，亞灣新創園紹介資料（2023年2月9日 亞灣新創園訪問時に入手）

## <ウェブサイト URL>

駁二共創基地 <https://www.pier2base.tw>

DAKUO 高雄市數位內容創意中心 <https://dakuo.co/>

高雄軟體園區 <https://www.ksp.org.tw/>

KO-IN 智高點 <https://koin.kcg.gov.tw>

物聯網智造基地 [https://www.ideas-hatch.com/iot\\_service\\_hub.jsp](https://www.ideas-hatch.com/iot_service_hub.jsp)

亞灣新創園 <https://www.yawan-startup.tw/>

亞灣 5G AIoT 創新園區 <https://asiabay.org.tw/>

## <面談調査記録>（コード，面談対象，実施日時）

kaohsiung-2023 高雄市政府經濟發展局関係者および KO-IN 智高點の運営者 2023年2月9日

(高雄市財税行政ビル内にて実施)

## 第2章 亜灣新創園 (Startup Terrace Kaohsiung)

### 1. はじめに

本章は、亜灣 5G AIoT 創新園區内の施設のなかで、国際的視野の下でスタートアップ（成立 8 年以内）の支援を行う「亜灣新創園 (Startup Terrace Kaohsiung)」について詳しく解説する。亜灣新創園は、複数のアクセラレータが入居し、各々スタートアップの育成を行う。加えて、新創園管理局が単一の相談窓口を設置し各種サービスを提供する。主な支援内容は、近隣施設との連携による実証実験の実施、スタートアップと地元産業・企業との連携促進、国際連携支援（海外スタートアップのソフトランディングと国内スタートアップの国際展開）である。

以下、第 2 節で開設の経緯と目的、高雄市内の他のスタートアップ支援施設との違いについて明らかにする。第 3 節では、亜灣新創園のスタートアップ推進戦略の基本的な流れについて解説する。第 4 節では、同創新園が提供する支援サービスについて説明し、第 5 節では、入居企業と戦略的パートナーについてその内訳を分析する。第 6 節はまとめである。

### 2. 開設の経緯と目的

亜灣新創園は、台湾南部地域におけるスタートアップ発展のため、經濟部中小企業處が「亞洲新灣區 5G AIoT 創新園區」計画とリンクさせ、5G AIoT を重点とする国際的な創業クラスターとするため設立されたものである（2021 年 12 月に開設）。亜灣新創園は「高雄ソフトウェアパーク（高雄軟體園區）」内の鴻海ビルに位置し（3 階および 8 階）、スタートアップの他、アクセラレータ、パートナー企業も参加する創新創業のエコシステムを形成している。スタートアップと地元企業との協力による伝統的産業の変革および特色あるスタートアップの発展を目指している。合わせて、スタートアップおよび人材が国境を越えて行き来する台湾南部における国際的連携の拠点となろうとしている（<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1482> 2023 年 3 月 17 日閲覧）。

亜灣新創園の英語名は「Startup Terrace Kaohsiung」である。「Startup Terrace」は、元々、2019 年 10 月に台湾北部の新北市林口に開設されたスタートアップ基地の「林口新創園」の英語名であり、經濟部中小企業處の管轄下にある。亜灣新創園も經濟部中小企業處が主導し、南北の均衡発展を考慮し、高雄市（市政府、港湾、電力や鉄鋼などの国営事業）と協力して開設された。高雄市は元々、従来型の重化学工業が主力産業であったが、その後新たな産業（半導体、光電子、医療器材、ソフトウェア等）も徐々に発展してきた。これに加えて、ス

スタートアップ人材育成のための拠点が必要とされたのである (yawan-2023)。

施設の実際の管理運営については、林口新創園では、「台北市電腦商業同業公會 (Taipei Computer Association : TCA)」が担っている。他方、亜灣新創園は、国立高雄大學が主に担っている (2022 年は、高雄大學と資訊工業策進會 [Institute for Information Industry : III] が担っていた)。運営スタッフの人数は、20~25 人程度である (yawan-2023)。

周辺のスタートアップ等を支援する施設との違いや役割分担について説明する。まず、高雄市政府が経営するスタートアップ基地「DAKUO 高雄市數位内容創意中心」や「KO-IN 智高點」との違いは、これらが主には国内のスタートアップによる国内でのビジネスを支援対象としているのに対して、亜灣新創園は国際的なスタートアップ基地の位置付けである。インバウンド (海外から台湾・高雄へ) とアウトバウンド (台湾・高雄から海外へ) の両方を業務範囲としている。

次に、亜灣新創園は、上述のように高雄ソフトウェアパーク内の鴻海ビルに位置しているが、高雄ソフトウェアパークにも多数の企業 (現在、300 社余り) が入居し支援を受けている。ただし、入居している企業には設立後相当の年数を経たもの、あるいは既にかかなりの規模に達した北部地域の企業の分社も含まれる。産業分野は、ソフトウェア、デジタルコンテンツ、スマート技術応用、その他とやや多様化している<sup>1</sup>。他方、亜灣新創園は成立 8 年以内のスタートアップが対象で、産業分野は 5G および AIoT の応用にフォーカスしている (yawan-2023)。

### 3. スタートアップ推進戦略

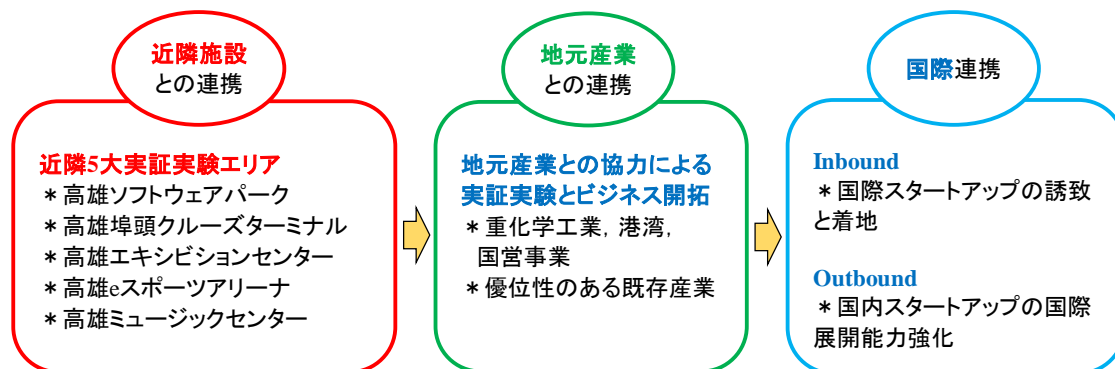
#### 3.1 基本戦略

亜灣新創園の基本的なスタートアップ推進戦略は、①実証実験エリアとして近隣施設と連携→②地元産業との連携による実証実験とビジネス開拓→③国際連携推進 (インバウンドとアウトバウンド)、という流れである (図 1)。以下で、3つの連携の各々について詳しく説明する。

---

<sup>1</sup> 高雄ソフトウェアパークは、經濟部加工出口區管理處の下、2000 年開設した。7.9 ha の面積があり、南北 2 つのエリアに計 8 つのビルを有する。2023 年 3 月 2 日時点で、342 社入居し (ソフトウェア 99 社、デジタルコンテンツ 34 社、スマート技術応用 40 社、その他の分野 169 社)、全体で投資額累計約 209 億台湾元、雇用創出効果 7,911 人、年売上額は 142 億台湾元以上に上る。入居企業へのサービスとして、単一窓口による対応、技術・人材・資金・ビジネスマッチング面での支援、園区内企業間の交流会開催等がある。園区内に、デジタル人材育成のための「DX 共創基地 (Digital Transformation Innovation Hub ; 數位轉型共創基地)」が設置されている (<https://www.ksp.org.tw/> 2023 年 3 月 24 日閲覧)。

図1 亜灣新創園のスタートアップ推進戦略



(出所) ウェブサイト (<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1482> 2023年3月21日) から引用し若干の改変を加えた。

### 3.2 近隣施設との連携

亜灣新創園の近隣には、次のような実証実験エリアとして活用できる5つ施設があり、その担当応用分野を紹介する(魏嘉宏, 2022; <https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1486> 2023年3月17日閲覧)。

- 高雄ソフトウェアパーク園区 (高雄軟體園區) : e コマース、5G
- 高雄埠頭クルーズターミナル (高雄港埠旅運中心) : スマート観光、港湾業務応用
- 高雄エキシビジョンセンター (高雄展覽館) : スマート展示館、新形態展示会
- 高雄eスポーツアリーナ (高雄電競館) : スマート・リクリエーション、5G 無人機競技
- 高雄ミュージックセンター (高雄流行音樂中心) : バーチャル共演、ホログラフィック プロジェクション

実証実験の手配は、アクセラレータ選抜のスタートアップならアクセラレータを通じて行う。加えて、亜灣新創園管理局プロジェクト・オフィスに直接申請する方法もある。亜灣新創園の施設内にも実証実験スペースがある (yawan-2023)。

### 3.3 地元産業との連携

ここでは、地元産業との協力による実証実験とビジネス開拓について説明する。高雄市は重化学産業や従来型製造業の比重が大きく<sup>2</sup>、これらの産業分野の企業では、近年、経営改革やDXが必要となっている。まず、グリーンテクノロジーや省エネ技術を活用し生産プロセスの効率化を進める必要がある。これに向けた企業とスタートアップとの連携のために、

<sup>2</sup> 2022年1~11月の高雄市の総売上高のうち、化学材料、基本金属、電子部品の3つのカテゴリーの合計が63%を占めていた(高雄市, 2023)。

例えば、「2022 Greentech Startup Challenge Contest（綠色科技新創獎勵競賽）」が開催された。これは經濟部中小企業處の主催で、4月から11月にかけて、林口創新園と亜灣新創園の両方で実施された。17社の大企業が、各々、省エネや廃棄物処理に関連して自社が直面する問題を出題し、スタートアップがそれへの解決策を提案する。企業による3段階の審査を経て、3回目の最終審査を通過したスタートアップは各々合計100万台湾元の奨励金を獲得する。その後、解決策が企業に実際に導入され、その成果が追跡調査される（經濟部中小企業處，2022；[https://www.yawan-startup.tw/en/News\\_Card\\_Content.aspx?n=1532&s=4583](https://www.yawan-startup.tw/en/News_Card_Content.aspx?n=1532&s=4583) 2023年3月21日閲覧）。面談調査では、次の様な発言があった。「このようなコンテストを通じて、我々はスタートアップと従来型産業の大企業とをマッチングする。スタートアップは成長の機会を得る。同時に、地元の従来型産業や国営事業の企業は、このようなコンテストで我々のスタートアップの実力を目にする。... この他、我々は幾つかの展示会を開催している。これを通して、従来型産業であれハイテク産業であれ、地元の企業を招き、スタートアップを紹介する」（yawan-2023）。

ウェブサイトによれば、高雄市は優位性を持つ6つの産業の集積があり、亜灣新創園は、スタートアップがこれらの産業分野の企業と共同で実証実験を行い、あるいはビジネス上の協力をを行う機会を提供するという。6つの産業とは、金属加工業、情報電子産業、精密機械産業、デジタルコンテンツ産業、バイオテクノロジー医療産業、海洋港湾産業である（<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1486> 2023年3月21日閲覧）。

面談調査で、これらの産業でのスタートアップ技術の応用可能性について問うたところ、次の様な例が提示された。「バイオテクノロジーに関しては、高雄ではAIの応用が主である。例えば、レントゲン写真やMRIの検査結果の判断で、AIで医師の判断を支援する。高雄市の比較的大規模な病院等とアライアンスを組み、新しいデジタル技術で医師の判断の負担を軽減し、効率と精度の向上に繋げようとしている。次に港湾については、造船業あるいは沿岸警備での活用もある。伝統的な操船は大部分目視に頼っていたが、亜灣新創園のスタートアップがAR/VRを活用し、一層多くの情報を操船パネル上に統合し表示できるようにした。これを、観光などの別分野に応用することもできる。例えば、クルーズ船が来航した際、かつては接岸した後に観光・消費行動が始まっていたが、スタートアップの技術により、接岸する前に高雄のことがわかるようにする。つまり、ARにより、透明なガラスの上に、例えば、このビルが高雄85大樓（85 Sky Tower）だと表示する。あるいは、高雄港の歴史について解説する。このように、デジタル技術の様々な活用が考えられる」（yawan-2023）。

### 3.4 国際連携

亜灣新創園は国際スタートアップ基地の位置づけであり、日本および東南アジアとの交流を進めている。高雄市は従来から日本企業との交流が密接で、亜灣新創園も開設当初から

日本との連携を開始し、2022年10月には、台湾のスタートアップを伴い東京、大阪、京都へ訪問し、また日本のスタートアップを高雄に連れてくるという具合に交流を進めた。日本側のカウンターパートとして、日本台湾交流協会高雄事務所がある。また、みずほ銀行を含む日本企業とも良好な関係がある。日本企業側も、亜灣新創園に入居しているスタートアップと連携し新ビジネスの開拓を進めようと希望している。その後、シンガポールとの相互ソフトランディング支援の提携を結んだ。シンガポールはユニコーンの企業数ではアジア有数であるため重視されている。加えて、インドネシアも交流対象となっている。經濟部関連の各部署・機関が異なる国と協力を進めており、現在、亜灣新創園の分担は、以上の3ヵ国なのだという (yawan-2023)。

さて、スタートアップの国際連携支援には、インバウンド（海外スタートアップの誘致と着地）とアウトバウンド（国内スタートアップの国際展開）の2つの方向がある。まず、インバウンド、すなわち、海外スタートアップおよび人材向けのソフトランディング支援（オンラインとオフライン両方を通して）に関して説明する。申請資格としては、①対象：台湾南部のスマート製造、クリエイティブ・コンテンツ/レクリエーション、港湾応用等にフォーカスした国際チーム、②技術領域：5G、AIoT、クラウド応用の製品・サービス、③期間：原則1週間から1ヵ月。審査に合格したものには次のような支援サービスが提供される（<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1488>；<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1536> どちらも2023年3月18日閲覧）。

- 無償でのコワーキングスペース（2席、1ヵ月まで）および公共設備の使用。
- 単一窓口による各種コンサルテーション（財務会計、法律、税務、創業者ビザ、企業設立法規等）。
- 園区のアクセラレータやスタートアップとの交流機会。
- 実証実験エリアの手配。
- 台湾南部の中大型企業、ベンチャーキャピタル（VC）、戦略的パートナー等とのマッチング。
- その他（アジア市場分析報告提供、展示会参加）。

面談調査で、海外スタートアップと地元企業や投資家等とのマッチングについて問うたところ、次のような説明があった。「かつてシンガポールからチームが来たとき、我々は2つの方法で彼らに対する認知度を高めた。第1に、展示会への参加である。例えば、スマートシティ展、新創大南方展會で、チームに展示会の一区画を提供し、地元組織（企業、銀行、VC、地方政府等）へPRさせた。第2に、幾つかのセミナーに、関連する産業の大企業を招待し交流させ、マッチングを助けた」（yawan-2023）。

次に、アウトバウンド、すなわち、台湾スタートアップによる国際展開への支援について説明する。面談調査によれば、幾つかの段階がある。①スタートアップが海外市場展開を準備しているなら、当地のアクセラレータと繋げるように手助けする。②その後、当該市場へ

の進出が適切だと感じたら、ソフトランディングの計画で手助けする。③ソフトランディング後、持続的に成長しそうなら、当地の企業とのマッチングを開始する (yawan-2023)。

③に関して敷衍するなら、亜灣新創園がフォーカスしている国（現在は、日本、シンガポール、インドネシア）以外でマッチングが必要なら、関連する機関と相談する。例えば、相手国・都市が高雄市の姉妹都市なら同市を通してアクセスする。それ以外なら、經濟部に相談する。当該国の外務省の出先機関に通常、経済問題担当部局があり、そこを通してアレンジする、といった具合である (yawan-2023)。

## 4. スタートアップ支援サービス

前節で、実証実験エリア、地元産業との連携、国際展開に関する亜灣新創園のスタートアップ支援活動について明らかにした。本節では、これ以外の領域での支援サービスについて解説する。

### 4.1 活動スペース提供

亜灣新創園は鴻海ビルの3階および8階を専用の活動スペースとして有している（合計床面積4,486 m<sup>2</sup>）<sup>3</sup>。その中には、次の様なエリアがあり、その内容紹介をする (Startup Terrace Kaohsiung, 2023 ; [https://www.yawan-startup.tw/News\\_Photo.aspx?n=1485&sms=11460](https://www.yawan-startup.tw/News_Photo.aspx?n=1485&sms=11460) 2023年3月17日閲覧)。

- 戦略情報室：高雄関連のデータ収集、スタートアップへの情報提供、戦略策定に使用。
- 実証実験スペース：アイデアを披露し、実証実験により製品開発を促進。
- 独立オフィス：25 部屋。
- コワーキングスペース：130 席。
- 休憩エリア/バー：共有キッチン、レクリエーション・スペース。
- デモルーム：デモと集会を行う。

若干の補足をすると、独立オフィスは、部屋のサイズ（大・中・小）により、賃借料（月額）は各々、2万2,000台湾元、4万4,000台湾元、6万6,000台湾元。コワーキングスペースは、月額で1席3,600台湾元である。そして、独立オフィスおよびコワーキングスペースを賃借りした場合、以下のサービスも付随する。①基本インフラサービス：水道電気、管理、インターネット、郵便、出入り口の警備、セキュリティー・モニタリング。②公設スペース使用：会議室、休憩エリア、事務エリア、給湯室、デモルーム、実証実験スペース、共有キ

---

<sup>3</sup> 面談調査で、鴻海との協力関係について問うたところ、「特別な協力関係はない。単に場所を借りているだけ。賃借料も相場に基づいて支払う必要がある」とのことであった (yawan-2023)。



ッチン、国際ピッチ・スペース等（全部で 200 坪以上）。③専門支援サービス：国際資源との連結、アクセラレータのコンサルティング、ビジネスマッチング、メンタリング、関連サービス（法律、特許、ローン等）（<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1489> 2023 年 3 月 17 日閲覧）。

## 4.2 コンサルテーション

「亜灣新創園プロジェクト・オフィス（亜灣新創園專案辦公室）」では、以下の様な各種問題に対応する単一のコンサルテーション窓口を開設している（<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1487> 2023 年 3 月 18 日閲覧）。

- 企業関連：会社設立、登記のプロセス、会社規定の企画、移転、総合法規（税務、特許申請、発展条例、契約）、銀行金融。
- 経営関連：法律、税務企画、会計制度。
- 各種資源関連：政府補助申請、市場・ビジネスのマッチング、各種業務開拓、資材所要量計画。
- 国際関連：就業ゴールドカード/就業 Pass カード<sup>4</sup>、創業者ビザ、国内外アクセラレータ・プログラムとの連結

この他、經濟部智慧財産局が知財に関して、毎月定期的に 1 対 1 のオンラインのコンサルテーションのサービスを提供している（事前予約制）（<https://www.yawan-startup.tw/News3.aspx?n=1556&sms=11536> 2023 年 3 月 18 日閲覧）。

## 4.3 クラウド・プラットフォーム

亜灣新創園は世界の 3 大クラウド企業、すなわち、AWS（Amazon Web Services）、Microsoft Azure、Google Cloud と提携し、クラウド・プラットフォームのサービスを提供している。狙いは、「これら国際的企業のクラウドリソースと訓練課程を引き入れ、南部地域のクラウド人材の育成を助け、台湾のスタートアップと中小企業のクラウド専門技術部署の立ち上げと応用を加速する。さらに国際市場展開の経験を積ませ、スタートアップによる国際業務開拓を助け、また南部台湾企業のクラウド活用 DX を促進する契機とする」というものである。大まかな支援の流れは、イノベティブなクラウド製品創造を支援→大企業とのマッチングによる実証実験→中大型展示会等への参加推薦であり、合わせて、マーケティング推進のリソース、あるいは資金・ビジネスのチャネルとの連結が行われる（<https://www.yawan->

---

<sup>4</sup> 「就業金卡（Employment Gold Card）/就業 Pass 卡」とは、就労許可、居留 VISA、外僑居留証及び再入国許可の 4 つの機能が付いた台湾での就業用のカードである（<https://goldcard.nat.gov.tw/en/> 2023 年 3 月 18 日閲覧）。

startup.tw/cp.aspx?n=1555 2023年3月18日閲覧)。3大クラウド企業の各々のプログラムの内容は、表1に整理されている。

表1 亜湾新創園クラウド・プラットフォーム企業のプログラム内容

企業	プログラム内容
AWS	AWSクラウド・ジョイントイノベーション計画の3本柱は、園区のスタートアップ計画支持、企業とスタートアップの共創クラスター、およびクラウドマーケットと海外展開である。DX人材育成、企業のDX、企業とスタートアップの協力からスタートアップ支援までの一連のプログラムを提供し、台湾のイノベーションとスタートアップ・エコシステムの成長をサポートする。
Microsoft Azure	Azure Cloud ポイント、プロ級の技術とマーケティングのコンサルティングチーム、およびエコシステムパートナーとVCを包括するMicrosoft Startups Founders Hubのリソースと専門的な技術サポートを提供する。Microsoftの豊富な国際的テクノロジーとリソースをスタートアップチームに注入し、発展可能性のあるアプリケーション・ソリューションがMarketplaceを通じて国際市場にリンクすることを助け、事業の急速な成長を実現させる。才能、創意、技術、市場の総合的実力の向上を指導し、完成度の高いビジネスモデルの構築に繋げる。
Google Cloud	Acer AI Cloud（宏碁智雲資訊）は、Google Cloudの戦略的パートナーであり、Googleのクラウドサービスを提供し、並びにAcerグループのリソースと組み合わせ、業界とのリンク、マーケティング、専門的な指導、市場参入、海外展開などを含むスタートアップに必要な完備されたサービスを提供する。Acer AI CloudとGoogleは共同でスタートアップチームの指導にリソースを投入し、ビジネスモデルがうまく軌道に乗り国際展開するのを加速する。

（出所）ウェブサイト（<https://www.yawan-startup.tw/cp.aspx?n=1555> 2023年3月18日閲覧）の説明を引用し意識した。

面談調査で確認したところ、3社のプログラムの内容は色々異なる部分があるものの、実質的な内容を大まかに整理するなら、人材育成、スタートアップの製品開発支援、および大企業とのマッチングによる実証実験と市場開拓支援の3つになる。そして、これは事実上、アクセラレータ・プログラムと同じと考えてよいのだという（yawan-2023）。

## 5. 入居企業と戦略的パートナー

亜湾新創園の入居企業は、新創事業（設立8年以内が条件）、国際級アクセラレータ、その他の共創パートナーの3タイプがある。個人名義では入居申請できない。入居申請が許される産業分野として、「AIoT、5G、スマート・レクリエーション、海洋観光、およびその他スマート応用等関連領域を主とする」と規定されている（[https://www.yawan-startup.tw/News\\_Toggle.aspx?n=1481&sms=11476](https://www.yawan-startup.tw/News_Toggle.aspx?n=1481&sms=11476) 2023年3月18日閲覧）。以下本節では、入居企業（特にスタートアップ）の概要、アクセラレータ、および戦略的パートナー（入居の有無にかかわらず）の3つについて、各々解説する。

## 5.1 入居企業の概要

表2は、亜灣新創園のウェブサイトの「入居園區（進駐園區）」の頁（<https://www.yawan-startup.tw/cl.aspx?n=1479> 2023年3月18日閲覧）に基づき、入居企業および既に卒業した企業の内訳を示したものである。2023年3月18日時点の入居企業は、全体で75社、うちスタートアップ（新創）が73社、アクセラレータが2社である。少し前（2023年2月9日）に入手していた別の資料によれば（Startup Terrace Kaohsiung, 2023）、スタートアップが90社、アクセラレータが3社とある。この食い違いは、後者が審査承認済み、前者が既に入居契約締結済みの企業数であることによる（yawan-2023）。なお、亜灣新創園が関与しているスタートアップは、バーチャル入居も加えると総数は200社超であり、上述のクラウドサービス業者との関連も含めると、非常に多数のスタートアップと繋がりがあるといえる（yawan-2023）。

表2 亜灣新創園の入居企業（契約済み）および卒業企業（2023年3月18日時点）

	入居企業	卒業企業
全部	75	19
アクセラレータ	2	5
スタートアップ	73	14
デジタルコンテンツ	11	2
AIoT	17	5
クラウド応用	10	2
スマート医療	10	2
デジタルマーケティング	7	0
5G	3	2
AI応用	14	0
その他	11	2

（注1）複数のビジネス分野に重複して分類されているスタートアップがあるため、各分野の企業数合計は、スタートアップの企業総数を超える。

（注2）ウェブサイトの集計に若干の不備があったので、筆者が補正した。

（出所）ウェブサイト（<https://www.yawan-startup.tw/cl.aspx?n=1479> 2023年3月18日閲覧）に基づき作成。

こうした数値によると、亜灣新創園開設より1年余り経た時点（概ね2023年2～3月）で入居しているスタートアップ（設立8年以内のみ）は、入居契約済みベースで73社（審査承認済みベースでは90社）、ビジネス分野の内訳では（複数のビジネス分野に重複して分類されているスタートアップもある）、AIoTやAI応用が多く、デジタルコンテンツ、クラウド応用、スマート医療も相当数に上るものの、5Gは未だ少ない。既に卒業したスタートアップも14社ある。

面談調査（2023年3月7日実施）によれば、入居するスタートアップの出身地は、南部が45%、中・北部が55%である。北部には林口新創園があるのに何故中・北部のチームがわざわざ亜灣新創園に来るのかと問うたところ、「方向性が違う。亜灣新創園は、従来型産業や国営事業との連携がある。また、国際連携でも、林口新創園は主に米国・欧州にフォーカスしているのに対して、亜灣新創園はアジア、特に日本や東南アジアにフォーカスしている。もし林口のチームが、米国・欧州以外にアジアでもビジネスしたいなら、亜灣への入居を希望するかもしれない」とことであった（yawan-2023）。

スタートアップとして入居するには次の3つのルートがある。①直接、亜灣新創園の管理局に申請する。②亜灣新創園に入居しているアクセラレータに選抜される。③上述のクラウド・プラットフォーム企業（AWS、Microsoft Azure、Google Cloud）の推薦を受ける。最終的には、經濟部中小企業處が立ち上げた審査委員会により審査と承認を受ける（yawan-2023）。

スタートアップが、例えば、既に台北で会社登記している場合、高雄のオフィスを設ける形で入居申請もできる。高雄での会社登記が奨励されるものの、必須ではない。ただし、実際に人員を派遣し入居する必要がある。同様に、他のスタートアップ基地あるいは育成機関に既に入居しているスタートアップでも、亜灣新創園に入居申請できる。ただし、実際に人員を派遣し入居する必要がある。スタートアップの入居期限は原則2年間で、さらに1年間の延長を申請できる（延長は1回のみ）（[https://www.yawan-startup.tw/News\\_Toggle.aspx?n=1481&sms=11476](https://www.yawan-startup.tw/News_Toggle.aspx?n=1481&sms=11476) 2023年3月18日閲覧）。アクセラレータの選抜により入居したスタートアップは、基本的に当該アクセラレータ・プログラムの期間（通常3ヵ月～半年程度）終了に伴い退出する。ただし、そのスタートアップが更なるリソースや支援を必要とする場合、亜灣新創園での入居を上述の期限内（原則2年+延長1年で最長3年間。アクセラレータ・プログラム期間もこれに含まれる）で延長するよう申請できる。

スタートアップが入居するに際して供与される補助金には次の2種類がある。①アクセラレータ選抜については、アクセラレータに対する補助金がある。②直接、亜灣の管理局に入居申請した場合は、審査に合格するとオフィスあるいはコワーキングスペース賃借料の優遇がある（yawan-2023）。

なお、面談調査で、亜灣新創園に入居しているスタートアップの間でコミュニティが形成されているかどうかについて問うたところ、LINEを使用したバーチャルなコミュニティが存在するとのことであった。加えて、園區の管理局は、一方で園區内のスタートアップ間の協力を期待して、他方で外部団体との協力促進のため、リアルの交流活動を開催しているという（yawan-2023）。

## 5.2 アクセラレータ

亜灣新創園に入居しているアクセラレータは、2022年は7社、2023年は3社である。加

えて、上述の様に3大クラウド企業（AWS、Microsoft Azure、Google Cloud）のスタートアップ支援プログラムもアクセラレータとみなすことができる。アクセラレータの入居申請や評価については、經濟部中小企業處が立ち上げた審査委員会で審査される（yawan-2023）。

これを詳しく解説するなら、亜灣新創園の開設初年（2022年）に入居していたアクセラレータは、BE Health Ventures（比翼生醫創投）、Foodland Ventures（扶田資本）、SparkLabs Kaohsiung、MuckerLab Taiwan、FHnet（富鴻網）、United Innovation Accelerator（聯合創新加速器）、In-Trust Cloud Technology（銀創雲端科技）の7社であった（<https://www.yawan-startup.tw/cl.aspx?n=1479> 2023年3月22日閲覧）。アクセラレータの入居期限は原則3年で、さらに1年間の延長を申請できる（延長は1回のみ）ことになっている（[https://www.yawan-startup.tw/News\\_Toggle.aspx?n=1481&sms=11476](https://www.yawan-startup.tw/News_Toggle.aspx?n=1481&sms=11476) 2023年3月22日閲覧）。ただし、毎年、KPI（Key Performance Indicator）の達成率についてチェックされ、期末審査で成績不良だと補助金を減額され、さらに翌年のプログラム継続の申請で却下される。こうしたチェックは年度の途中でもなされており（期中審査）、運営改善のための提案がなされる。2023年に入居しているアクセラレータは、上述の7社のうち、BE Health VenturesとFoodland Ventures、および新たに入居したflyingVest Ventures（曙光網路加速器）の3社である。つまり、残り5社は、成績不良により1年間のみで退去させられたのである（yawan-2023）。

仮にアクセラレータの成績が良好でも、入居期限（原則3年+1年延期可）が来たら退去しなければならない。面談調査でその理由を尋ねたところ、継続的に新たなアクセラレータが入ってきて異なるプログラムを提供し、またアクセラレータ間でも交流の機会があることを期待しているからだという。また、「林口新創園と亜灣新創園では、入居しているアクセラレータも異なる。もし亜灣のアクセラレータが好成績なら、将来林口に行く機会もある。逆に林口のアクセラレータが優良なら、期限満了後に亜灣に来て入居してもよい」とのことであった（yawan-2023）。

スタートアップと大企業・投資家などとのマッチングについては、各アクセラレータが行うのが1つのやり方である。加えて、亜灣新創園管理局が行うこともある。例えば、みずほ銀行が投資対象を探しに来たとき、管理局がマッチングした。エンジェル投資家あるいは台湾の投資銀行が投資先を探しに来たときも、管理局が手助けする（yawan-2023）。

### 5.3 戦略的パートナー

亜灣新創園の戦略的パートナー（策略合作夥伴）として、ウェブサイト（[https://www.yawan-startup.tw/News\\_Photo.aspx?n=1541&sms=11525](https://www.yawan-startup.tw/News_Photo.aspx?n=1541&sms=11525) 2023年3月20日閲覧）には、表3に示されるような17の企業・団体が掲載されている。スタートアップとの協力によりDXおよびイノベーション促進を希望する企業に加え、スタートアップ支援事業に従事する団体も含まれている。

表3 亜灣新創園の戦略的パートナー（一部）

企業名	主な事業内容
佳世達科技（Qisda）	世界的なLCDプロジェクター・メーカー，スマート・ソリューション・プロバイダー，医療器材メーカー，グループで2つの総合病院も経営
TSUCREA	起業支援サービス事業，クリエイターを支援するクリエイティブ創造事業，日本への進出支援
酷碼科技（Cooler Master）	PC関連ハードウェア（冷却システム，ケース，電源供給器等）メーカー
聚陽實業（Makalot Industrial）	織物・衣服メーカー，WIIMブランド
數位時代-創業小聚（Meet Startup by Business Next Media）	起業コミュニティ活動
高雄雲端聯合創新中心（Kaohsiung Cloud Joint Innovation Center）	AWSのスタートアップ育成，DX人材育成，企業DX・オープンイノベーション支援
微軟新創加速器（Microsoft for Startups）	Microsoft のアクセラレータ
國立中山大學南區促進産業發展研究中心（Southern Taiwan Industry Promotion Center）	中山大學付属の研究センター。南部地域の産業発展推進プロジェクトの受託実施を行う
雲高科技（DYNAMIC COMPUTING TECHNOLOGY）	鴻海グループの子会社。データセンター，クラウドアーキテクチャ・サービス
宏碁智雲資訊（Acer AI Cloud）	Acerグループの子会社。企業へのクラウドサービス提供
創夢市集（DIT Incubator & Venture Management）	娯楽生活分野の企業へフォーカスしたVC
盛宇創新（Rainmaking Innovation Taiwan）	英国に本部があり世界各地にオフィスを持つ国際的アクセラレータ
KK Fund	アールリーステージの東南アジア・ビジネスにフォーカスしたVC
若水數位評價	「若水新創推進器」を運営。VC兼財務分析専門家のチームにより，スタートアップに長期間（最低2年）の包括的サービスを提供する
邁達特數位	明基佳世達グループ。ICTソリューション・プロバイダー
全家便利商店（FamilyMart）	コンビニエンスストアへの新技術応用，新式小売り業，新式チェーン店経営モデルを模索
LINE 新星計劃	LINEをプラットフォームとする新ビジネス開発

（出所）ウェブサイト（[https://www.yawan-startup.tw/News\\_Photo.aspx?n=1541&sms=11525](https://www.yawan-startup.tw/News_Photo.aspx?n=1541&sms=11525) 2023年3月20日閲覧）に基づき作成。

筆者が亜灣新創園訪問時（2023年2月9日）に入手した資料によれば、亜灣新創園の戦略的パートナーは40社である（Startup Terrace Kaohsiung, 2023）。その後確認したところ、この数値がより新しいものだという。その内訳は、台湾南部地域の中・大型企業が主である。協力の方法は、次の3つである。①スタートアップがパートナー企業のサプライチェーンに

入る。②パートナー企業のビジネスモデルあるいは製造上の DX に際して、スタートアップがそれを助ける。③パートナー企業が、自社が直面する問題を踏まえて課題を出題し、スタートアップがその解決策を提案する (yawan-2023)。

亜灣新創園の戦略的パートナーとなるために企業は会費を支払う必要はないが、スタートアップとの協力に要する資金・資源は企業側が負担する<sup>5</sup>。③は上述の「Genentech Startup Challenge Contest」と類似の仕組みだが、コンテストの賞金は政府が支出したのに対して、ここでの協力に要する資金はパートナー企業から提供される点異なる。この他、企業が新ビジネスチャンスを掴んだとき、人材が十分でないため、スタートアップ・チームを招き共同で行うという形の協力もある (yawan-2023)。

## 6. まとめ

亜灣 5G AIoT 創新園區は、5つの大規模な産業・文化施設を活用した台湾最大規模の 5G AIoT の実証実験フィールドである (古田, 2022)。5G AIoT の応用と普及をリードすることを志すだけでなく、こうした技術やビジネスモデルを持つスタートアップと従来型産業の地元企業とをマッチングして、南台湾の産業変革を促すことを意図している。そして、こうしたスタートアップやパートナー企業を誘致し連携させ、実証実験の実施や市場開拓、とりわけ国際展開を支援するものとして、複数のスタートアップ基地や高雄ソフトウェアパークのようなものが存在する。亜灣新創園は、その中の1つであるが、複数のアクセラレータを入居させそのプログラムを並立実施させるのに加えて、管理局も独自チャンネルで支援サービスを提供し、いわばアクセラレータとインキュベータを兼ね合わせたような形であり、また多数の戦略的パートナーを擁しており、さらには支援対象のスタートアップもパートナー企業も国内に限らず海外アクターをも当初から視野に入れている点で、とりわけ特徴的なものとなっている。こうした手法は、既に新北市の「林口新創園」で試行したものを取り入れたものである。これが、長期的に見て有効かどうかは、今後も観察を要する。

亜灣新創園を含む亜灣 5G AIoT 創新園區の活動は、5G AIoT の実証実験フィールドとして非常に大規模であるだけでなく、デジタル技術の応用や産業革新でどちらかというと後れを取っていた南部地方都市が、むしろその後進性ゆえにスマート技術の応用を大々的に行い、スタートアップと地元企業との連携により双方の発展を促し、国際連携をも押し進めて、南台湾の国際的創業クラスターを建設しようとする野心的なものである (kaohsiung-2023)。ここで用いられる手法、例えば、上述のような亜灣新創園の運営方式、国内外のパートナー企業との連携の仕方、地方と中央政府および多数の関連部局がリソースを持ち寄り大規模

---

<sup>5</sup> 面談調査で、パートナー企業が支出する資金額について問うたところ、「我々の調査によれば、昨年 (2022 年) 一部の企業は、単独で大体 500 万台湾元以上の資金投入をしている」とのことであった (yawan-2023)。

で複雑なエコシステムを構築・運営していこうとする取り組みは、それがどの程度成功するかも含めて、日本の地方都市にとっても継続的に注目する価値があるであろう。

**謝辞**：本研究の過程で、台湾と日本の多数の専門家、業界・行政関係者等から面談調査や情報収集に関して協力を得た。資金面では、JSPS 科研費 21K01669 の助成を受けた。ここに謹んで謝意を表したい。ただし、本稿にありうべき誤りは全て筆者が責任を負うべきものである。

## 参考文献

### <日本語>

古田清史 (2022) 「高雄市におけるスタートアップ支援機関『亜湾新創園』の開設と 5G・AIoT 関連の新たな産業クラスター形成の取り組みについて」『交流』(2022.2) No. 971, pp. 15-19

### <中国語>

高雄市 (2023) 「高雄新創環境」, 高雄市におけるスタートアップ推進の紹介資料 (2023 年 2 月 9 日 高雄市政府經濟發展局訪問時に入手)

經濟部中小企業處 (2022) 「111 年度 綠色科技新創獎勵競賽 申請須知」

([https://www.yawan-startup.tw/en/News\\_Card\\_Content.aspx?n=1532&s=4583](https://www.yawan-startup.tw/en/News_Card_Content.aspx?n=1532&s=4583) 2023 年 3 月 15 日 閲覧)

魏嘉宏 (2022) 「高雄『亞灣 5G AIoT 創新園區』簡介」亞洲新灣區 5G AIoT 創新園區專案辦公室 2022 年 1 月 24 日 ([https://asiabay.org.tw/open\\_data](https://asiabay.org.tw/open_data) 2023 年 3 月 15 日 閲覧)

### <英語>

Startup Terrace Kaohsiung (2023) “Startup Terrace Kaohsiung”, 亜湾新創園紹介資料 (2023 年 2 月 9 日 亜湾新創園訪問時に入手)

### <ウェブサイト URL>

DAKUO 高雄市數位内容創意中心 <https://dakuo.co/>

高雄軟體園區 <https://www.ksp.org.tw/>

KO-IN 智高點 <https://koin.kcg.gov.tw>

亜湾新創園 <https://www.yawan-startup.tw/>

亞灣 5G AIoT 創新園區 <https://asiabay.org.tw/>



<面談調査記録> (コード, 面談対象, 実施日時)

kaohsiung-2023 高雄市政府經濟發展局關係者および KO-IN 智高點の運營者 2023 年 2 月 9 日  
(高雄市財稅行政ビル内にて実施)

yawan-2023 亞灣新創園 專案辦公室主任 Mr. 游立光, 計畫主持人 Mr. 翁銘章,  
2023 年 3 月 7 日 (オンラインで実施)

「台湾と北九州市のスタートアップ・エコシステムの交流可能性」  
に関する調査研究

令和 5 年 3 月 発行

発行所 公益財団法人アジア成長研究所  
〒803-0814 北九州市小倉北区大手町 11 番 4 号  
Tel : 093-583-6202 / Fax : 093-583-6576  
URL : <http://www.agi.or.jp>  
E-mail : [office@agi.or.jp](mailto:office@agi.or.jp)

---